

広報委員会委員に就任して

(株) ダイヤコンサルタント 東北支社
倉 真也



はじめに

昨年4月に東北地質調査業協会の広報委員に就任致しました株式会社ダイヤコンサルタントの倉です。

東北地方における震災復興の早期実現や多発する自然災害への対応、公共施設の老朽化対策や土壌・地下水汚染問題など地質調査業の果たす役割はこれまで以上に重要になってきています。協会皆様とともに、本協会の発展および地質調査業の様々な課題への取り組みに貢献して参りたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

出生から大学生生活まで

私は昭和50年に北海道の石狩市に生まれ、就職するまでの約24年間をこの故郷で過ごしました。石狩市は、札幌市の北隣に位置し、日本海に面し、サケが帰る母なる川「石狩川」が流れており、サケを使った石狩鍋発祥の地とされています。しかし、日本人の「魚離れ」が進んだこともあり、石狩鍋は衰退の一途をたどっており、同市の観光協会では「石狩鍋復活プロジェクト」を展開中とのことです。「なまら、うめえ(とても美味しい)」ので、皆さんも機会があれば是非食してみてください(あまり機会はないと思いますが・・・)。

この石狩市から札幌市内にある大学(工学部土木工学科)へ進学してからは、学業は適当にして、学生生活の大半を部活動に

捧げました。所属したのはアメリカンフットボール部であり、主に飲みニケーション能力の向上に力を注ぎました。当時の体育会系部活動における飲み会といえどどのくらい過酷だったかは、想像に難くないと思います(あえて詳細は明記しません)。しかし、4年間の部活動生活で、縦社会を生き抜く術や共通目標に向かって一致団結する素晴らしさを学びました。この4年間の経験が、今も活きていると実感しているところです

入社から転勤まで

平成12年4月に株式会社ダイヤコンサルタントに入社しました。勤務地は札幌市であり、主に道路計画を行う部署に配属となりました。入社時は北海道の有珠山が噴火しており(H12.3.31噴火)、弊社が国道の復旧関連業務に関わっていたことから、配属当日から大忙しの日々が約1ヶ月間続きました。年度末という繁忙期を乗り切ったあとの災害対応ということもあり、当時の先輩職員達は全員ピリピリムード。新入社員の歓迎会なんてどこ吹く風。何をやっても迷惑をかけてしまう日々。もうこの仕事は無理だと思った5月下旬、災害対応という特別な状況下で手にした月給はとんでもない額に!それまでの苦労なんて消し飛びました。

その後、道路計画業務に従事するなかで、地質技術者とともに地質調査計画を

.....

立案し、発注者へ提案するなど上流側の仕事を経験させて頂きました。また、路線選定のコントロールポイントとなる地すべり地形の判読や土量計算時の土質区分など、設計における地質調査結果の重要性も勉強させて頂きました。そして、入社してからちょうど10年が経ったころ、社会人生活の転機を迎えました。そう、東北転勤です。

転勤から現在まで

当当時の上司から東北転勤を告げられ、ここ仙台市に家族を伴い異動したのが平成22年4月でした。東北勤務では、これまでの技術職から営業職となりました（志しは一流の技術営業マン）。当時は公共事業の縮小に伴い、地質調査業の発注量も減少しており、厳しい営業活動を強いられました。なんとか1年を乗り切れると思ったとき、あの「東日本大震災」に見舞われました。

私は、地震発生時に石巻市にいました。混乱のなか、なんとか9時間かけて仙台市に戻りました。自宅に戻ると家族は車の中にいました。家のなかには家具や食器等が散乱しており、とても生活できないとのこと。それから二日間、昼は片付け、夜は余震におびえながら車中で寝ていました。当時4歳と2歳だった子供達はキャンプ気分を楽しそうだったのが救いでした。また、食料が少なくスーパーに3時

間並んで買える物もジュースとお菓子が大半でした。子供達は、普段よりお菓子がたくさん食べられるのでこれまた大喜び。ものは考えようだなあと感心しつつ、空腹と戦いました。おかげで、たった数日間で3kgも痩せました。メタボ解消プログラム対象者であった私は、「半年で3kg痩せる」という目標を一気に達成しました。嬉しいような、悲しいような複雑な気分でプログラムの指導者に目標達成の報告をしたことが印象に残っています（今はすっかりメタボに戻ってます）。

震災発生から現在まで、地質調査を中心に震災関連業務に携わることで、微力ながら東北地方の復旧・復興に貢献できたと思っております。

おわりに

現在、3人の父親となった私ですが、常日頃から地質調査をはじめとする建設関連業の素晴らしさを家族に伝えているつもりです。担い手不足が深刻化している業界ですが、まずは身近な家族に我々の仕事を知ってもらうことが重要と考えております。今後も協会活動を通じて様々な人に地質調査業の素晴らしさを知ってもらい、業界の発展に貢献できるように努力致しますので、改めてよろしくお願ひ致します。